

二〇一九年九月二〇日

こすもすの迷路に纏ふ夕日かな  
大岩の主峰を好む赤蜻蛉  
運動会果てて校舎の長き影

なつき  
うつき  
素 秀

二〇一九年九月一九日

山霧の晴れてあらはる杉美林  
フォークダンス輪の伸び縮み天高し  
魯山人ゆかりの寺の秋を聞く  
霧に濡れ草食む牧の母子馬  
観音の御胸にをどる楓の影

隆 松  
やよい  
たか子  
宏 虎  
うつき

二〇一九年九月一八日

句碑に遊び萩に遊びてしじみ蝶  
水子地藏真白に乾く秋思かな  
コカリナの楽の洩れくる秋山家  
山腹を撫づるごとくに霧走る

うつき  
たか子  
みづき  
明日香

二〇一九年九月一七日

瀬祭忌糸瓜の棚に残り花  
しじみ蝶存門忙ししだれ萩  
寺庭のどこに佇ちても萩の風  
三輪車かごいつぱいに櫟の実  
白衣より覗くタトウや秋遍路

はく子  
菜 々  
菜 々  
なつき  
素 秀

二〇一九年九月一六日

月を待つ東の小窓開け放ち  
追憶に浸る夜風や星月夜  
お写経へ先づ手を漱ぐ秋の水  
口歌む愛の讃歌や小鳥くる

うつき  
智恵子  
菜 々  
みづき

二〇一九年九月一五日

無人駅出で一面の林檎畑  
秋彼岸荒れし俣なる流人墓  
釣堀のウキに止まりし赤蜻蛉  
白粉花やどこか昭和の匂ふ路地

智恵子  
宏 虎  
愛 正  
うつき

二〇一九年九月一四日

竹藪にほつほつ点る彼岸花  
寝る前にもいちど庭へ今日の月

智恵子  
こすもす

毎日句会みのる選・二〇一九年九月二三日